

授業概要

本コースでは、思想的観点から近代哲学の基本を学びます。細々とした知識を暗記するよりも、重要トピックにおける根本的な考え方を理解することに重点を置きたいと思っています。自然科学の急速な発達と社会的変動の只中において、近代の一連の哲学的思索が古代ギリシア哲学伝統（存在論）と如何に対峙し、また一神教伝統（啓示と救済）によって如何に規定されたか、という問いを念頭に置きながら、大局的な流れを追っていきます。平易さを重視するため、ラッセルの『西洋哲学史』Ⅲを講義のベースとしますが、散見される偏った記述は批判し、他の哲学史叙述（ホワイトヘッド・ハイデッガー・メルロー＝ポンティ・ロールズなど）を参考にする場合もあります。余裕があれば個々の思想家の著作からの抜粋も読んでいきたいと思ひます。

授業計画

第 1 回	イントロダクション/近代西洋思想の二源泉
第 2 回	マキャヴェッリ
第 3 回	デカルト
第 4 回	啓蒙思想・世俗主義・科学革命
第 5 回	イギリス経験論
第 6 回	社会契約論
第 7 回	カント（1）
第 8 回	カント（2）
第 9 回	ヘーゲル
第 10 回	功利主義
第 11 回	ニーチェ（1）
第 12 回	ニーチェ（2）
第 13 回	プラグマティズム
第 14 回	資本主義の時代におけるイデオロギーと自然科学の発達
第 15 回	現代思想の源流/結語
第 16 回	最終試験

到達目標

- (1) 近代哲学特有の問題設定や用語法に習熟できる。
- (2) 近代哲学における古代ギリシア哲学の読み替えという契機と一神教的基層を把握できる。
- (3) 近代哲学が現代社会の仕組みや今日の学問のあり方を形成していった過程を理解できる。
- (4) 近代哲学の発展に自然科学や同時代的状況が及ぼした影響を知ることができる。

履修上の注意

予備知識は特に必要ありませんが、高校の倫理の教科書ないしネット上の情報源を用いて、コース開始前に西洋思想史の概略を掴んでおくと、理解度が格段に高まるはずです。毎回出席し、集中して聴講してください。授業自体は通常の講義方式で行いますが、ディスカッションやグループワークの時間も設け、主体的な参加を促すつもりです。授業中や授業後の質問や反論を大いに歓迎します。考えることの喜びを知る機会となることを切に願っています。

予習・復習

毎回授業終了後に、復習のためのキーワードを与えます。

評価方法

最終試験の成績による（試験 100%）。

テキスト

適宜プリントを配布します。意欲のある学生には別途参考文献を指示します。